



すばらしいこの地球を我々の行動で守ります

環境・労働安全衛生報告書

Environmental, Occupational Health and Safety Report

2016

杏林製薬株式会社

1 ごあいさつ

平素より格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、環境問題は全人類に共通する問題として世界的な対応が求められ、社会の持続的な発展に向けて省エネ法が改正される等、企業に対する社会からの要請も拡大しています。

さらに労働安全衛生面におきましても、従業員の多様性・人格・個性を尊重しつつ、安全かつ健康的で、働きやすい職場環境の実現が求められます。

当社は「キョーリンは生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します」という企業理念の下、創業100周年にあたる2023年を見すえた未来像として長期ビジョンHOPE100を策定し、患者さんや医療に携わる方々から信頼され、社会に存在意義を認められる医薬品メーカーを目指して歩みを進めています。

当社の地球環境の保全、労働安全衛生の向上に対する取り組みとしましては、2004年度に環境マネジメントシステムの国際基準であるISO14001、労働安全衛生マネジメントシステムであるOHSAS18001の認証を、本社をはじめ全ての工場、研究事業所、支店・営業所で取得しました。当社では現在、ISO14001とOHSAS18001の双方のシステムを統合し、EHS活動(※)という名の下で、効率的かつ効果的にシステムの運用を図っています。これらの活動は、従業員・関係者全員で着実に取り組むことが重要かつ有意義であると認識いたしております。

今後も地球環境の保全、職場の労働安全衛生の向上に積極的に取り組み、社会に貢献する所存です。

今般2015年度の環境保全と労働安全衛生の活動内容を「環境・労働安全衛生報告書」として取りまとめました。本報告書を通して、当社の環境保全・労働安全衛生に対する考え方や活動をご理解いただき、ご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

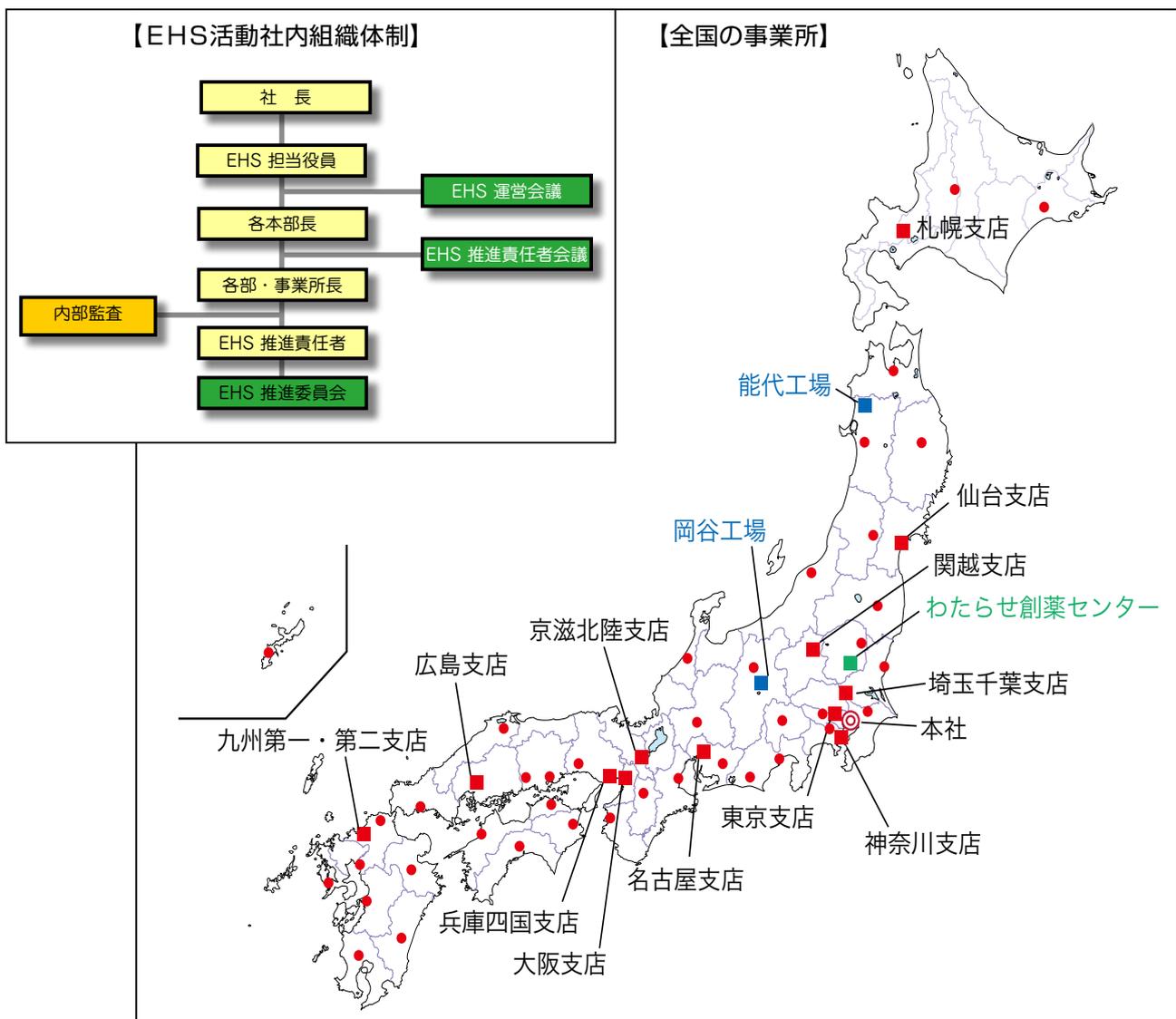
2016年8月

杏林製薬株式会社
代表取締役社長 宮下 三朝



※ EHS ; Environment(環境) , Health(健康) , Safety(安全) の略
当社の社内用語として使用しています。

創 業	大正12年(1923年)
設 立	昭和15年(1940年)
資 本 金	43億17百万円
本社所在地	東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地
従 業 員 数	1,731名
事 業 内 容	医薬品の製造販売
売 上 高	1,064億円(2015年4月~2016年3月)
親 会 社	キョーリン製薬ホールディングス株式会社(東証一部上場)
事 業 所	わたらせ創薬センター 岡谷工場、能代工場 札幌支店、仙台支店、関越支店、埼玉千葉支店、東京支店、神奈川支店、名古屋支店、大阪支店、 京滋北陸支店、兵庫四国支店、広島支店、九州第一支店、九州第二支店(13支店、86営業所)



3 報告書目次

1. ごあいさつ	1
2. 会社概要	2
3. 報告書目次（編集方針）	3
4. キョーリン製薬グループ「EHS」方針	4
5. EHS 活動の歩み	5
6. 環境・労働安全衛生に関する報告（2015年度）	
全社重点目標（2015年度達成状況）	6
KPI（CO ₂ 削減）と全社における1年間の環境との関わり	7
環境に対しての継続的な取り組みと評価	11
7. 事業所別活動報告（2015年度）	
研究部門の取り組み	12
製造部門の取り組み	14
営業部門の取り組み	16
本社の取り組み	17
働きやすい職場を目指す、全社での取り組み	19
8. 企業の社会的責任	
当社のコンプライアンスとリスク管理に対する取り組み	21
9. 社会貢献活動	
東日本大震災被災地への復興支援	22
社会とのコミュニケーション	23
10. 2016年度全社重点目標	27
11. マテリアルフローと環境会計	29
12. 環境に関するデータ	30

○ 編集方針

- ・ 対象期間：2015年4月1日～2016年3月31日 活動については直近のものも含まれます。
- ・ 参考にしたガイドライン：環境省「環境報告ガイドライン（2012年版）」
- ・ 発行：2016年8月（前回2015年8月発行、次回は2017年8月発行予定）
- ・ 発行媒体：本報告書はPDFでご覧いただけます。ウェブサイトのみの公開としております。
- ・ 環境・労働安全衛生報告書に関するお問い合わせ先

〒101-8311 東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地
杏林製薬株式会社 総務部 EHS 担当
TEL：03-3525-4711 FAX：03-3525-4722

4 キョーリン製薬グループ「EHS」方針

キョーリン製薬グループは、全ての企業活動において、企業行動憲章に基づき、EHSマネジメントシステムを経営の重要な柱として位置づけ全社で取り組んでいます。

「地球温暖化防止」「資源保護」「自然環境との調和」を重点テーマとする環境保全及び汚染予防に積極的に努めると共に、当社グループに関わる全ての人の「安全」と「健康」の確保を最優先し、労働安全衛生活動を積極的に推進しています。さらには、地域社会と協調しながら社会貢献活動を推進し、社会との共生を実現していきます。当社グループの方針は以下のとおりです。

1. EHSマネジメントシステム

- ① EHS担当役員は、EHS推進責任者を任命し、EHS管理の組織の責任と権限を明確にして、EHS活動の維持向上を推進していきます。
- ② 環境マネジメントシステム(ISO14001)及び労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS18001)を十分に認識し、計画(Plan)、実行(Do)、点検(Check)、改善(Action)のサイクルを半永久的に回していくことによって、継続的にEHSの改善活動を行い、EHSマネジメントシステムを確立していきます。
- ③ 本方針及び目標を達成するために、積極的にEHS活動の推進体制を準備します。
- ④ 組織に関わる人がEHS活動を理解し、自覚を持った行動ができるよう教育・訓練を実施します。

2. 環境保全への取り組み

地球環境保護を実践するため、省エネルギー・省資源、廃棄物の削減、化学物質の管理強化など環境負荷物質の削減と、限りある資源の有効利用を推進し、目的・目標の設定と見直しを都度行い、当社グループに関わる全ての人と積極的な活動に努めていきます。

3. 安全と健康への取り組み

継続的な安全衛生管理を自主的に進めることにより、労働災害の防止と働く全ての人たちの健康増進、さらに進んで快適な職場環境を形成し、労働災害ゼロを目指した安全衛生水準の向上に努めていきます。

4. 内部監査

EHS活動が適切に実施されていることを確認し、その実施状況を評価する内部監査システムを整えていきます。本方針を達成するための活動計画の進捗状況確認やシステムの運用、法令遵守等のチェックを行い、業務活動の継続的改善に努めていきます。

5. 情報の開示

ステークホルダーとの適切なコミュニケーションを行い、環境保全活動や労働安全衛生活動への取り組み内容を積極的かつ公正に開示していきます。

2012年4月1日

キョーリン製薬グループ
EHS担当役員

私本臣春

※ EHSとは環境・労働安全衛生の意味で、E=Environment, H=Health and S=Safetyの略。

実施年	環境関係	労働安全衛生関係
1998年	生産部で環境活動方針をとりあげる	
1999年	ダイエット 30 作戦開始 野木工場 ISO14001 認証登録	
2000年	焼却炉全廃 行動憲章・社員行動指針の制定 岡谷工場 ISO14001 認証登録	
2001年	能代工場 ISO14001 認証登録	労働安全衛生マネジメントプログラム導入検討
2002年	諏訪湖アダプトプログラム参加 ※ 諏訪湖畔の一定区間を受持ち、美化活動を行う活動 栃木県保険衛生学会表彰 「環境への取り組み」 創薬研究所、研究センター ISO14001 審査登録に向け取り組み開始	3工場* OHSAS18001 審査登録に向け 取り組み開始
2003年	創薬研究所、研究センター BSI ジャパンによる審査受審 ISO14001 認証登録 営業部門、本社 ISO14001 認証登録に向け取り組み開始	3工場* BSI ジャパンによる審査受審 OHSAS18001 認証登録 創薬研究所、研究センター OHSAS18001 審査登録に向け取り組み開始 営業部門、本社 OHSAS18001 認証登録に向け取り組み開始
2004年	営業部門、本社を含めた全社統合 BSI ジャパンによる審査受審 全社で ISO14001 認証登録	本社、研究事業所、営業部門を含めた全社統合 BSI ジャパンによる審査受審 全社で OHSAS18001 認証登録
2005年	ISO14001・OHSAS18001 両システムの統合、全社として BSI ジャパンによる審査受審 全社で ISO14001 認証更新、OHSAS18001 認証継続 2006年3月野木工場閉鎖（機能は全て能代工場に移管）	
2006年	ISO14001(2004年版)規格へ切替とあわせ認証継続及び OHSAS18001 認証更新	
2007年	グループ会社（キョーリンリメディオ井波事業所）への ISO14001 認証取得支援開始	
2008年	グループ会社（キョーリンリメディオ井波事業所）への ISO14001 認証取得支援・OHSAS18001 認証取得 支援開始	
2015年	わたらせ創薬センターで ISO14001 認証取得、OHSAS18001 認証取得 2015年7月創薬研究所閉鎖	

* 3工場：岡谷、野木、能代工場

【 ISO14001（環境マネジメントシステム）認証登録証】



【 OHSAS18001（労働安全衛生マネジメントシステム）認証登録証】



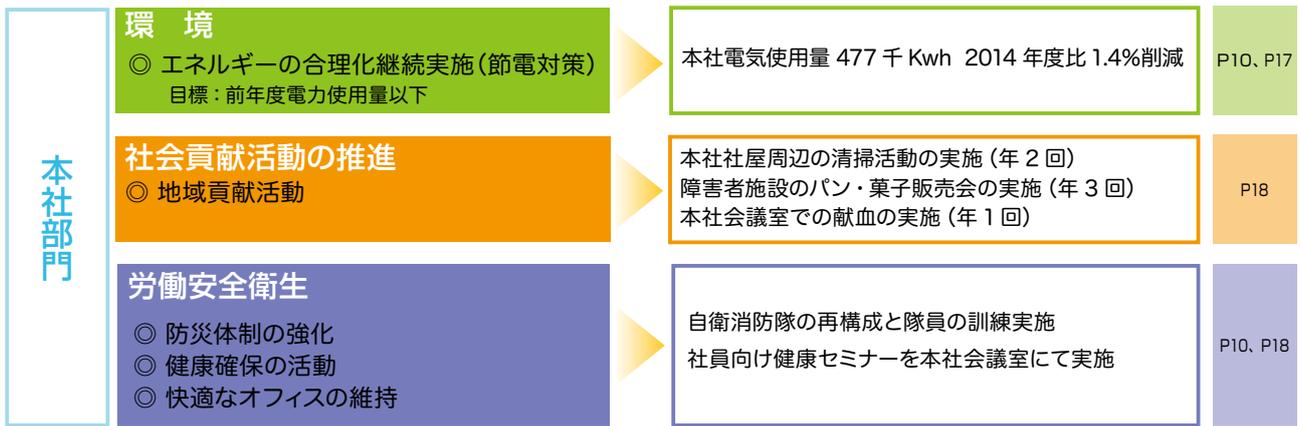
全社重点目標 (2015年度の結果及び主な状況)

2015年度
重点目標

スローガン：EHS - HOPE100

杏林製薬(キョーリン製薬グループ)を永続的に堅実で健全な企業として成長させるため、地球と人に優しい企業を目指します。

	重点目標	結果及び主な状況	記載頁
全社目標	環境 ◎ エネルギー合理化 CO ₂ 排出削減 (KPI) 2015年度までの目標：対2009年度比25%減 * 2015年度は15,824 t以下のCO ₂ 排出量を目標とします。 ◎ 廃棄物の削減	2015年度CO ₂ 排出量：19,840 t ☆トピックス参照 工場・研究所を中心にリサイクルなどに取り組み、廃棄物を削減 2015年度廃棄物量：638t 最終処分量 21 t 最終処分率 3.3%	P7～P8
	社会貢献活動の推進 ◎ 地域貢献活動 ◎ 周辺住民とのコミュニケーション	継続的な地域貢献活動、周辺住民の皆様とのコミュニケーションを図るため各種イベントを各事業所で予定通り実施	P8
	労働安全衛生 ◎ 休業労災ゼロ 労働安全衛生対策の履行による労災の削減	全社で1件の休業を伴う労働災害が発生	P8～P9
製造部門 研究開発部門	環境 ◎ CO ₂ 削減策の検討と実行 ◎ 廃棄物の削減 最終処分率5%以下	2015年度CO ₂ 排出量：18,768 t 2015年度廃棄物量：638 t 最終処分量 21 t 最終処分率 3.3%	P9、 P12～P15
	社会貢献活動の推進 ◎ 地域貢献活動の推進 ◎ 周辺住民とのコミュニケーション	周辺住民の皆様をご招待して観桜会、納涼会実施 地域への清掃活動などを通じての社会貢献活動を実施	P13、P15
	労働安全衛生 ◎ 休業労災ゼロ 労働安全衛生対策の履行による労災の削減	わたらせ創薬センターでは休業・不休の労働災害が各1件発生 岡谷工場では不休の労働災害が1件発生	P13、P15
営業部門	環境 ◎ 効率的な運転で燃費向上 目標：前年度燃費より1%改善(前年度13.6km/ℓ) ◎ 省エネ活動：空調等節電	営業車両燃費：14.2km/ℓ、燃費は2014年度比4.4%改善 本社・支店エネルギー使用量：511KI(原油換算)、2014年度比8.9%削減	P10、P16
	社会貢献活動の推進 ◎ 地域貢献活動 ◎ MRの普通救命講習受講	各事業所周辺の清掃活動などを通じて社会貢献活動を実施 MRの普通救命講習受講と前年度受講者への継続的教育を進めた	P16
	労働安全衛生 ◎ 事故率5%以下への具体的検討と実施 車両事故の削減：事故率18%未満	2015年度車両事故：183件発生(50%以上有真事故) 事故率：19.6%	P10 P16～P17



☆トピックス KPI (Key Performance Indicators : 主要業績評価指標について) ☆

生物多様性の保全の為に、地球温暖化ガス(CO₂)削減をKPIに設定しています。

杏林製薬各事業所と関係するグループ会社によるCO₂削減プロジェクトを推進し、CO₂削減に向けた会議を毎年実施しています。

基準年度と排出量：＊2009年度 ＊【21,099 t】

中長期目標値：＊2015年度 ＊【15,824 t】(基準年度25%削減→HOPE100ステージⅠ出口目標)

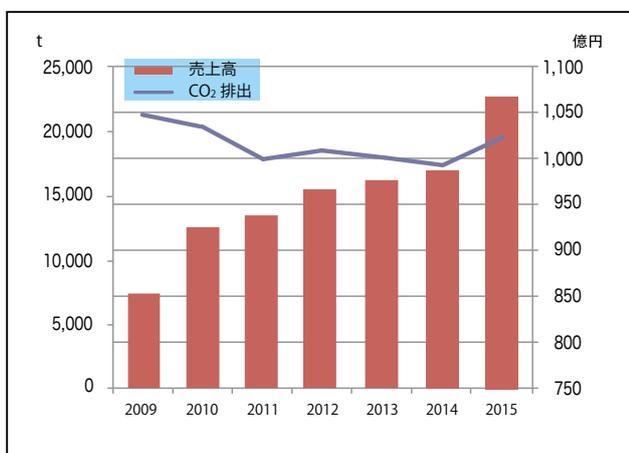
年度毎の目標値と実績は以下のとおりです。(CO₂排出量は定期報告書で報告した数値です。)

年度	＊2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	＊2015年
目標(t)	＊【21,099】	20,219	19,339	18,459	17,579	16,699	＊【15,824】
排出量(t)	21,099	20,187	17,815	18,417 (17,182)	17,919 (15,891)	17,389 (15,641)	19,840 (17,681)
総売上(億円)	853	925	937	959	976	985	1,064

2015年度の全社使用エネルギー(原油換算)：8,485kl(前年比18.4%増加)

2015年度のCO₂排出量は前年比2,451t増加しました。原子力発電が停止し、電気事業者のCO₂排出係数が大幅に増加しております。原子力発電稼働時の推定排出量は17,681tとなりました。

売上高とCO₂排出量



基準年度である2009年度と比較して2015年度は以下の結果となりました。

1. CO₂ 排出量：6.0%削減
2. 売上高：24.7%増加

2015年度のCO₂排出量は19,840tとなり、目標の2009年度比25%を達成することが出来ませんでした。

理由 ① 原子力発電所停止による電気事業者のCO₂排出係数の大幅増。

② 2015年度より旧創薬研究所と旧開発研究所を集約したわたらせ創薬センターが稼働したため、エネルギー使用量が増加しました。

※ ①、②共に目標設定時には想定をしておりませんでした。

全社対応

環境

○ 改正省エネ法の対応

2015年度は2015年7月に定期報告書と中長期計画書を提出いたしました。またCO₂排出量の削減策を検討するために、CO₂削減プロジェクトミーティングを実施し、杏林製薬各事業所と関係するグループ会社と共に対策案を検討し、更にグループ会社間相互に各事業所の設備等を見学することによりCO₂削減に関する情報共有をいたしました。

○ カーボンオフセット印刷の導入

2011年度より、一部印刷物にマイナスカーボンプリンティングシステムを導入いたしました。このシステムを導入することで、印刷物の発注と共に、CO₂の削減と節電に貢献することができます。2015年度は167kgのCO₂を削減しました。

*マイナスカーボンプリンティングシステム：リユース可能なCTP版「マイナスカーボンプレート」を使用することでCO₂削減に貢献できる印刷システムです。

社会貢献活動の推進

○ ひまわりプロジェクトの参加

東日本大震災発生後、震災復興・環境緑化支援民間プロジェクトである「ひまわりプロジェクト」へ2011年度から参加しました。2015年度もわたらせ創薬センターで300本のひまわりの苗をつくり、宮城県名取市へ寄附いたしました。寄附の際は、本社・仙台支店の社員がイベントに参加。市民の皆さんと共に苗の植え付けをしました。

労働安全衛生

○ 緊急時の社員安否確認システムの確立

2012年度に震災をはじめとする災害時の社員安否確認ツールとして、安否確認システムを導入しました。2015年度も同システムの実効性を向上させるため定期的訓練を行っています。

○ 緊急時初動対応手順書(ERP)の導入

2012年度は災害発生時の安全確保と二次災害防止を目的とした手順書を本社で作成しました。

2015年度は各工場・研究所への展開と訓練を進めています。

○ 労働災害の発生状況について

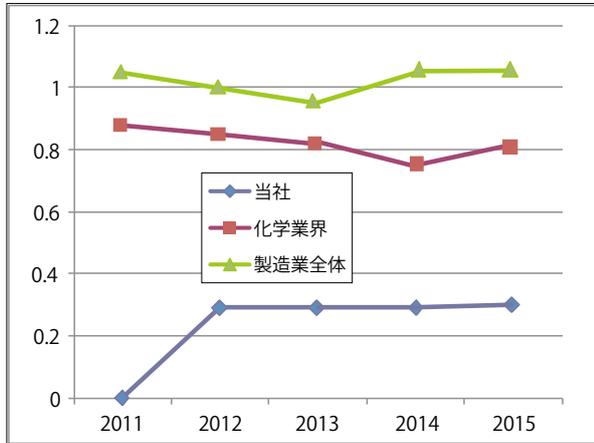
工場・研究所では休業労災が1件発生しました。休業を伴わない労働災害事故は2件発生しました。いずれも、各事業所で適切に対応し、再発防止策を実施しました。その他、労働安全衛生では特殊健康診断を実施し社員の健康管理を実施しています。

年度	労災件数	通院のみ	休業 1～3日	休業 4日以上	延損失日数	従業員数 (年度末)
2011	32	32	0	0	0	1,798
2012	27	26	0	1	25	1,797
2013	20	19	0	1	37	1,780
2014	34	33	0	1	5	1,771
2015	19	18	0	1	14	1,731

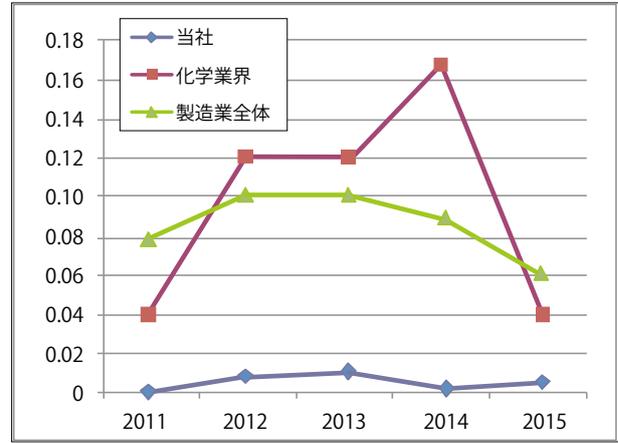
○当社の労働災害の度数率・強度率について

当社は、労働災害防止の取り組みにより度数率・強度率とも、製造業全体の水準を大きく下回っています。また、労災による死亡事故は、創業以来発生していません。

○ 度数率



○ 強度率



年度	当社	化学業界	製造業全体
2011	0.00	0.88	1.05
2012	0.29	0.85	1.00
2013	0.29	0.82	0.94
2014	0.29	0.76	1.06
2015	0.30	0.81	1.06

年度	当社	化学業界	製造業全体
2011	0.000	0.04	0.08
2012	0.006	0.12	0.10
2013	0.010	0.12	0.10
2014	0.001	0.17	0.09
2015	0.004	0.04	0.06

度数率：100万延実労働時間当たりの労働災害による死傷者数（災害発生頻度を表す）
算出方法 = 労働災害による死傷者数 / 延実労働時間数 × 1,000,000

強度率：1,000延実労働時間当たりの労働損失日数（災害の重さの程度を表す）
算出方法 = 延労働損失日数 / 延実労働時間数 × 1,000

研究開発部門・製造部門

環境

○ CO₂ 排出量削減について

「2015年度までに2009年度比25%削減」を目標として2015年度も省エネルギー化された設備の導入、事業所毎の節電活動を継続してきた結果、CO₂排出量は18,768 tとなりました。（原油換算で7,974 k l、前年6,605 k l）。

○ 廃棄物の削減について

廃棄物発生量が638 t（前年659 t）となりました。廃棄物最終処分率は3.3%となり、目標の5%以下を達成しました。

営業部門

環境

○ CO₂ 排出量削減について

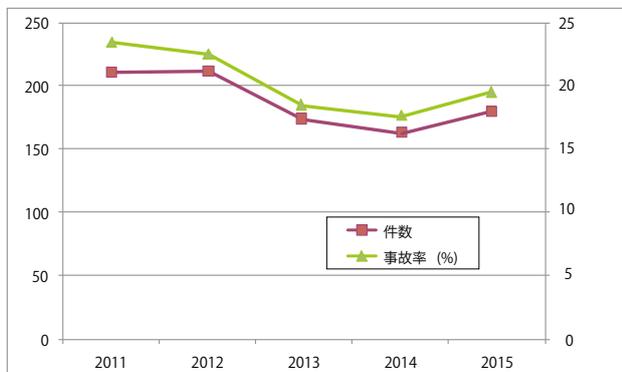
CO₂ 排出量を抑えるため、2015 年度は効率的な運転による営業車両の燃費向上（1 台あたり前年度燃費より1%改善：13.6km → 13.7km）を目標に取り組みを進めてきました。営業車両にハイブリット車両の導入やエコドライブの推奨など、環境に配慮した対策を実施し、年度平均で 14.2km/ℓ（4.4% の燃費改善）と目標を達成することができました。

労働安全衛生

○ 車両事故の削減について

2015 年度は、駐車場内での後進駐車の徹底、交差点内での安全確認の徹底、新入社員への研修強化などを継続実施しましたが、結果として車両事故件数（50% 以上有責事故）は 183 件となり、前年度の 163 件から増加しました。今後も一層の取り組み強化により車両事故発生を削減していきます。

車両事故件数（当方責任 50%以上）物損事故のみも含む



年度	2011	2012	2013	2014	2015
件数	211	212	176	163	183
事故率 (%)	23.3	22.8	18.7	17.4	19.6

本社部門

環境

○ 節電対策の実施

本社部門では 2013 年度にオフィス移転をおこない耐震対策と省エネ対策を強化しました。職場環境のリスクアセスメントを行うことで、職場環境を向上しました。

温度管理の徹底などエネルギーの合理化（節電対策）により、電力使用量前年度以下を目標に取り組みを進めてきました。

労働安全衛生

○ 心身のリフレッシュについて

本社社員の健康管理への取り組みとしてストレッチなどの体験を通じた健康セミナーを本社内にて実施しました。ノー残業デイの実施、VDT 障害対策などの対応を実施しました。

○ 防災体制の強化

自衛消防隊の再構成と隊員の訓練を行い、防災対策を強化しました。

本社が被災した際の人命救助体制を強化するため、上級救命講習を EHS 推進委員のうち 4 名が受講しました。

☆ 環境に対する継続的取り組みと自己評価 ☆

取り組み目標	達成手段	2015 年度計画 (数値目標含)	2015 年度実績	自己評価	記載頁
1. 地球温暖化防止 (CO ₂ 削減と省エネ)	新規設備投資による燃料使用量削減 (原油換算)	7,166 k l (2014 年度実績)	8,485kl(118.4%)	★	7, 29
	エコカー導入による燃費向上と排ガス削減	934/939 (99.5%、2014 年度実績)	938 / 938(100%)	★★★	16
	CO ₂ の総排出量の削減	15,824 t (原子力発電稼働時)	19,840 t (原子力発電稼働時 17,681t)	★	6, 7
2. 廃棄物発生量の削減	排出総量の削減	659 t (2014 年度実績)	638 t	★★★	6, 29, 32
	リサイクル促進	48% (2014 年度実績)	50.8%	★★★	29, 32
	最終処分量	27 t (2014 年度実績)	21 t	★★★	6, 29, 32
	最終埋立量ゼロへの挑戦	5.0% 以下	3.3%	★★★	6, 29, 32
3. 化学物質の管理	PRTR法対象物質管理と見直し	9.8 t (2014 年度実績)	7.7 t	★★★	29, 34
4. 大気汚染の防止	ボイラー・発電機よりのばいじん・NO _x 、SO _x 排出量測定管理	継続測定	基準値以下	★★★	29, 33
5. 水質汚濁の防止	排水処理棟、一次処理装置による処置、pH、BOD・SS管理	継続測定	基準値以下	★★★	29, 33
6. 森林破壊の防止	用紙リサイクル、再生紙使用、業務のペーパーレス化促進	48 t (2014 年度実績)	38 t	★★★	29, 34
7. オゾン層破壊の防止	特定フロン使用機器の全廃	2010 年度全廃完了	—	★★★	11
8. 地盤沈下の防止	地下水利用を削減し 上水利用率向上	81.1% (2014 年度実績)	83.1%	★★★	29, 31
9. 騒音の削減	定期測定	継続測定	基準値以下	★★★	34
10. 生物多様性の保存	地域住民とのコミュニケーション (地域貢献活動)	事業所個別に計画	全事業所計画達成	★★★	6, 7, 22~26
11. 環境情報の公開	環境報告書の作成、公開	8 月 WEB 公開	8 月 WEB 公開	★★★	本書

注 1

注 2

注 3

自己評価について：★★★達成 ★★ほぼ達成 ★更なる取り組みが必要

注 1) 平成 17 年排出ガス基準 75%低減の車両台数です。

注 2) PRTR物質の大気、土壌への排出はゼロです。

注 3) 生物多様性の保全について

当社は生物多様性の保全が国際的な重要課題であると認識しております。2012 年 1 月に日本製薬工業協会が「生物多様性に関する基本理念と行動指針」を公表しました。当社の環境に対する継続的な取り組みは製薬協の行動指針に適合しております。

岡谷工場の諏訪アダプトプログラム (24 頁) や能代工場の旧金勇の保存活動 (24 頁) 等の各事業所での社会貢献活動など地域社会とのコミュニケーションを図る取組み、及び従業員に対する環境教育を継続的に実施してまいりました。

今後も、国際社会や国内の動向、先進企業の取組みに関する情報収集を継続し、当社としての生物多様性の保全への取り組み強化に努めてまいります。



ガス吸収式急速式冷凍機

臭化リチウム-水を冷媒としておりフロンを使用しておりません。動物実験室の冷房に使用しております。



コ・ジェネシステムとは？

灯油発電機で作った電気を利用し、そのとき発生した廃熱をエアコンなどの動力源に再利用するシステムです。

研究部門の取り組み

2015年7月、旧創薬研究所と旧開発研究所の研究開発拠点を集約化して稼働したわたらせ創薬センターは、栃木県最南端の野木町に立地し、渡良瀬川・思川・巴波川の三つの河川が合流する渡良瀬遊水地に隣接しています。渡良瀬遊水地は、東京ドーム708個分に相当する日本最大の遊水地であり、首都圏有数の動植物の宝庫として、また人々のレクリエーションスポットとして大きな役割を果たしています。

環境では、自然の博物館と言われている渡良瀬遊水地周辺の汚染防止に協力すると共に、地域社会環境・地球環境の保全に努める活動を推進しています。

労働安全衛生では、そこで働く人々が安心して研究開発に打ち込めるよう、安全で快適な職場環境の整備に向け活動しています。

わたらせ創薬センター



医薬品の探索・創薬研究・研究開発
栃木県下都賀郡野木町野木1848

2015年度活動結果

環境

わたらせ創薬センター

1. CO₂ 排出量の削減

- CO₂ 排出量 2015年度：8,493 t（旧創薬研究所 621tを除く）
- ノーマイカーデイ（車通勤を自転車や徒歩の通勤にする活動）による CO₂ 削減
目標：23.0 t 以上削減 → 2015年度削減量：25.2 t

2. 廃棄物の適正管理

- 廃棄物総排出量 2015年度 121 t（注1）

3. 使用試薬等データベース化の推進及び管理

- 試薬等の効率的且つ有効な使用によるムダの削減

（注1）

旧創薬研究所の解体に伴う廃棄物総排出量につきましては、解体完了予定が2016年度のため、今年度の報告書には掲載しておりません。

社会貢献活動の推進

わたらせ創薬センター

1. 地域貢献活動の実施

- アルミ缶を回収して車椅子を寄付
- エコキャップ回収活動
- ひまわりプロジェクト参加による種蒔き、苗の育成
- 研究所内での献血活動
- AED 救命講習受講の推進
- 野木神社祭礼への協力支援
- 「全国友の会 小山支部」へあんずの実を提供
- 野木町産業祭への参加
- 国道4号線周辺清掃活動

2. 周辺住民とのコミュニケーション向上

- インターンシップ受入、職場見学・体験学習支援
- 視覚障害者施設の販売支援
- 新研究所建設に際し周辺環境に配慮を行い、住民の方への説明会を実施
- 桜の一般公開
- 納涼祭の開催

労働安全衛生

わたらせ創薬センター

1. 労働災害

- 2015 年度：目標 (3 日以上を通院労災 0 件) → 1 件発生

2. 危険点数の削減 (2015 年度対策実施件数)

	Aランク→Bランク以下
わたらせ創薬センター	1項目のうち1項目達成

製造部門の取り組み

能代工場



医薬品原薬・医薬品の製造
秋田県能代市松原1

能代工場は1995年に操業開始しました。秋田県北部沿岸地域に立地し、世界遺産の白神山地と一級河川の米代川、そして海の幸を提供してくれる日本海と自然環境に恵まれた環境です。2006年4月には「人に優しく、環境に優しい」をコンセプトとした新製剤棟を新設し主力工場として稼働しました。省エネルギーと地球環境に配慮した活動を目指し、当地の自然を守っていくことが当工場の社会的使命と考えています。

岡谷工場



医薬品の製造
長野県岡谷市湖畔1-14-3

岡谷工場は1948年に操業開始し、天竜川の源となる長野県諏訪湖畔に位置しています。蓼科高原、白樺湖、車山、霧ヶ峰高原、諏訪湖など四季の彩りに恵まれた、澄んだ空気と水と緑にあふれ、自然環境に恵まれた岡谷市の一角にあります。諏訪湖周辺では諏訪湖の水質保全と周辺の美化を守る「諏訪湖アダプトプログラム」活動に参加するなど、地域とのコミュニケーションと社会への貢献に努めています。
なお、2016年9月に岡谷工場は生産機能を移転し閉鎖する予定です。

2015 年度活動結果

環境

1. 能代工場

□ CO₂ 排出量 2014 年度：8,572 t → 2015 年度 8,617 t

□ 製造ロットあたりの CO₂ 排出量の抑制

目標：3.8 t/1ロット以下とする → 2015 年度実績：4.0 t/1ロット

<主な取組>

- ・造粒乾燥作業時間の短縮による電気量削減
- ・給湯器、給茶機のタイマー管理による使用制限
- ・蒸気配管の保温強化による電力量削減
- ・外灯の長期消灯などによる電気量削減
- ・工場全体での空調管理の徹底による電力量を削減（夏場：28℃設定、冬場：20℃設定 厳守）
- ・融雪装置を停止し、蒸気使用量削減（外気温プラス時）
- ・受電力変更に伴ったコ・ジェネレーションの稼働時の設定変更による灯油使用料削減

□ 廃棄物発生量の削減

目標：110 t以下とする（2014 年度実績：120 t）→ 2015 年度実績：79.9 t

<主な取組>

- ・リサイクル資料の回覧による、リサイクル効率アップへの意識向上
- ・紙のリサイクル（古紙分別）
- ・PTPシートに使用される、アルミ使用量の削減
- ・廃棄物扱いしていたカートン（試験用）をリサイクル品とした
- ・工程の安定化による不良錠の削減
- ・廃棄物扱いにしていた資材芯をリサイクル品とした

2. 岡谷工場

□ CO₂ 排出量 2014 年度：1,176 t → 2015 年度：1,028 t

□ 電気使用量の削減

2015 年度実績：1,230 千 kwh（前年度より 96 千 kwh 削減）

- 廃棄物量の削減
目標：276 t 以下の廃棄物削減を目標 → 2015 年実績 211 t
- リサイクル量の増加
目標：2015 年度目標 207 t 以上 → 2015 年度実績 90 t

社会貢献活動の推進

1. 能代工場

- 工場周辺地域の美化活動
- 風の松原を守る市民ボランティア大会
- 能代クリーンアップごみゼロ運動 (能代市役所周辺)
- COK20 (能代市が管理する歴史的建造物である旧料亭金勇の清掃及び保存活動)
- 能代クリーンアップ活動 (国道7号線沿い)
- 官庁落ち葉拾いボランティア活動
- 地域とのコミュニケーション (桜を観る会、納涼祭等)
- 工場見学の受入 (中学生、高校生、大学生、山本地域振興局 他)
- 工場内での献血協力

2. 岡谷工場

- 諏訪湖周辺の美化活動
 - ・諏訪湖アダプトプログラム
 - ・岡谷湖畔公園清掃活動
- エコキャップ、ベルマーク、ブルタブ、古切手回収活動
- ノーマイカーデーによる CO₂ 削減活動
- インクカートリッジのリサイクル
- マイバッグ使用による CO₂ 削減活動
- 地域とのコミュニケーション (納涼祭、岡谷ものづくりフェアへの出展)
- 献血活動
- 障害者施設製造のお菓子 (クッキー・ドーナツ) の購入販売 (就労継続支援 B 型事業所：社団福祉法人友倫会ソレイユ)
- 募金活動

労働安全衛生

1. 両工場共通

1. 労働災害

- 目標：2015 年度休業労災 0 件
 - ◎岡谷工場→休業労災は発生していません
 - ◎能代工場→休業労災は発生していません
 再発防止策を実施し、工場内の推進委員会で事故の報告を行い、また両工場
 情報共有と水平展開を図りました。

2. 危険点数の削減 (2015 年度対策実施件数)

	Aランク→Bランク以下	Bランク→Cランク以下
能代工場	対象項目なし	14 項目のうち 13 項目達成
岡谷工場	8 項目のうち 8 項目達成	4 項目のうち 4 項目達成

営業部門の取り組み

当社では 2004 年 7 月に業界初の支店・営業所での環境マネジメントシステム ISO14001 及び、労働安全衛生マネジメント規格 OHSAS18001 の認証を取得しました。2016 年より自社独自の EMS を構築し、MR 活動においても、環境と労働安全衛生に配慮しています。

全国 13 支店、86 営業所 (2015 年度末現在)



2015 年度活動結果

環境

1. 効率的運転で燃費向上

- 2014 年度：13.6km/ℓ → 2015 年：14.2km/ℓ
2014 年度より燃費が 4.4% 向上し、目標としていた前年比 1% 向上を達成
- ハイブリッド車両導入：2016 年 3 月末 = 420 台 / 938 台 (2015 年 3 月末 = 323 台 / 951 台)
- エコドライブの励行：ふんわりアクセル e スタート、加減速の少ない運転、早目のアクセルオフ
車両への不要物積載の禁止と整理整頓

社会貢献活動

1. 地域貢献活動の実施

- 支店周辺の清掃活動等を実施

2. スマイルプロジェクトと連動した活動の実施

- ペットボトルキャップ収集
- 社内で募金活動
- 使用済み切手の収集

3. MR の普通救命講習の受講

- 全 MR の普通救命講習再受講を推進

労働安全衛生

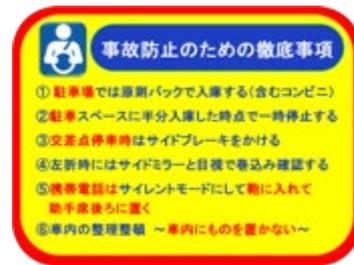
1. 車両事故率 (50% 以上有責) の削減

- 2015 年度車両事故率 (50% 以上有責)
2014 年度：17.4% (163 件) → 2015 年度：19.6% (183 件)
2014 年度より事故率が 2.2% (20 件) 増加し、目標としていた 18% 以下を達成することができませんでした。
- 車両事故防止の対策を実施
 - ◎ 交通安全キャンペーンの継続、全国交通安全運動と連動した取り組み
 - ◎ 意識高揚のための交通安全ステッカー
 - ◎ 交通安全ビデオによる搭乗者教育
 - ◎ 新入社員向け特別運転教習訓練
 - ◎ 豪雪地帯転勤者への特別運転訓練
 - ◎ リアコーナセンサーの導入
 - ◎ 衝突防止サポート機能付き車両の順次導入



毎年新入社員研修の一環として、特別運転教習訓練を実施

- ◎ 事故多発者へのドライブレコーダーの導入
- ◎ 車両使用者にわかりやすい内容で作成した安全運転徹底事項の浸透



2. 感染予防対策

- 医療機関訪問が主な業務であるため感染予防対策を徹底
 - ◎ 帰社時の手洗い・うがいの励行
 - ◎ 冬季のインフルエンザワクチン接種 (一部補助) による感染予防対策実施
 - ◎ リスク管理委員会の感染予防通達の徹底

3. その他

- 防災対策
 - ◎ 防災訓練の実施
 - ◎ 避難経路図の掲示と教育
- 健康増進策
 - ◎ ウォーキングキャンペーン
 - ◎ 健康相談
 - ◎ メンタルヘルス対策

本社の取り組み

本社においては、支店営業所とともに 2004 年 7 月に環境マネジメントシステム規格 ISO14001 及び、労働安全衛生マネジメント規格 OHSAS18001 の認証を取得しました。2016 年より自社独自の EMS を構築し、環境と労働安全衛生に配慮しています。

なお、2013 年 5 月に新本社ビルへと移転し、より一層の執務環境の向上を図りました。

本社



東京都千代田区神田駿河台 4 丁目 6 番地

2015 年度活動結果

環境

1. エネルギー使用量削減

- 2014 年度 本社電力使用量：484 千 kwh → 2015 年度：477 千 kwh
前年度から 7 千 kwh の電気使用量を削減

社会貢献活動

1. 地域貢献活動の実施

- 本社周辺の清掃活動を年 2 回実施
- 千代田区障害者施設のお菓子販売
- 本社会議室での献血実施

2. スマイルプロジェクトと連動した活動の実施

- ペットボトルキャップ収集
- 社内で募金活動
- 使用済み切手の収集

3. 上級救命講習の受講

- 2015 年度 : 4 名受講
緊急時における人命救助・二次災害防止の体制を強化するため、自衛消防隊を中心に 51 名が認定証を有しております

労働安全衛生

1. 自然災害への体制強化

- 自衛消防隊訓練の実施
- 2013 年 5 月に耐震対策が強化されたビルへ本社を移転
- 全従業員に対して本社ビルの避難経路について教育
- ビル管理会社の防災訓練に年 2 回参加
- 本社ビルでの備蓄品設置場所について EHS 推進委員会を通じて社員へ周知



2. 本社ビルでの安全性向上

- EHS 推進委員会による職場巡視を毎月実施
危険予知活動を行い、本社ビル内でのリスクを軽減



3. 気分リフレッシュによる快適な職場環境を実現

- 社員向け健康セミナーを年 2 回本社会議室にて実施

その他の取り組み

1. メンタルヘルスへの取り組み

メンタルヘルスの取り組みについては、管理者研修のなかで管理者の部下に対する配慮や注意すべき点・メンタル疾患の具体的な症状について理解し、予防・早期発見に努めています。そして、社員に疾患が発生したときには、主治医・所属部署・精神科産業医・保健師・人事部と連携をとり、健康の回復、職場復帰・再発防止に努めています。

また、新入社員教育やイントラネットにより、各自が心の健康を維持するための基本的な知識習得や情報提供を進めており、外部 EAP とも契約して、社員およびご家族の方が気軽に相談できる体制を整えています。

2. 子育て支援対策

当社は、社員の仕事と家庭（子育て等）が両立しやすい環境をつくるために、様々な施策を実施しています。また、仕事と家庭（子育て等）を両立する社員を職場全体で理解し、協力し合ってサポートしていける体制作りにも取り組んでいます。

1. 支援金

出産育児支援金

入学支援金

2. 育児休業制度

子どもが1歳6ヵ月に達するまで、または1歳到達直後の3月末日まで休業可能

3. 出産・育児に配慮した柔軟な勤務制度

短時間勤務制度・・・妊娠中および子どもが3歳到達直後の3月末日まで、勤務時間を30分単位2時間まで短縮可能

所定外労働の免除・・・子どもが3歳到達直後の3月末日まで

4. 子の看護休暇制度

小学6年生までの子で、看護・予防接種・健康診断が必要な場合、子1人につき年間5日、2人以上のとき年間10日取得可能

積立年休（有給）を利用可能

5. 配偶者出産休暇

配偶者の出産時に2日の特別有給休暇が取得可能

6. 再雇用（ジョブ・リターン）制度

妊娠・出産・育児のため退職した社員の再雇用



3. 健康保険組合の保健事業

当社は労働安全衛生活動の全社展開に当たり、杏林健康保険組合の保健事業と連携を取り、従業員や家族の健康管理のための生活習慣病健診、被扶養者健診等、下記の健康増進策を図りました。

1. 健診項目の充実 (基本的な健診項目に下記項目を追加)

- 生活習慣病健診・・・ 胃部検査 (X線検査、ペプシノーゲン検査)、腹部超音波検査、大腸癌検査、眼底検査、前立腺検査 (PSA検査)、喀痰検査
- 婦人科健診・・・ 子宮癌検査、乳癌検査
- 被扶養者健診・・・ 生活習慣病健診 (喀痰検査除く) 及び婦人科健診に同じ
- 特定健康診査・特定保健指導・・・ 40歳以上の社員・被扶養者の健診及び保健指導

2. データヘルス計画の推進 (生活習慣病予防対策の充実)

- 禁煙キャンペーン・・・ 65日間連続禁煙者に「達成賞」贈呈
- ウォーキングキャンペーン・・・ 目標達成者に「記念品」贈呈
- スポーツ補助費・・・ スポーツによる健康増進をサポート
- 禁煙外来費の補助・・・ 禁煙外来による禁煙達成者へのサポート



3. 疾病予防

- ファミリー健康相談・・・ 育児・急病・慢性病・精神衛生等の「電話健康相談」と専門医を紹介する「ベストドクターズ・サービス」
- インフルエンザ予防接種補助・・・ 予防接種の一部費用を補助 (社員及び家族)

4. 在宅療養支援面

- 保健師派遣事業・・・ 在宅高齢者のご家庭を訪問し、健康相談、福祉情報の提供

5. 医療費の適正化

- 医療費通知・・・ 1ヶ月に掛った医療費および健康保険組合からの給付金を通知
- 社会保険の知識 (小冊子) の配布・・・ 社会保険の制度や仕組みをまとめた小冊子を入社時に配布

8 企業の社会的責任

1. 当社のコンプライアンスに対する取り組み

基本方針

企業は、公正な競争を通じて利潤を追求するという経済的主体であると同時に、広く社会にとって有用な存在であることが求められています。

また製薬企業は、優れた医薬品を開発・供給することにより、世界の人々の健康と福祉に貢献する価値ある存在でなければなりません。

そして製薬企業の一員として当社は、『生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します。』という企業理念の下、国の内外を問わず、人権を尊重するとともに、すべての法令、行動規範およびその精神を遵守し、高い倫理観をもって行動します。

取り組み

高い倫理観をもって企業行動を展開するために、「杏林製薬企業行動憲章」と「コンプライアンス・ガイドライン」を制定するとともに、コンプライアンス委員会を設置しています。

- (1) 「杏林製薬企業行動憲章」は、企業理念に基づき企業倫理およびコンプライアンスの具現化に向けて制定されたもので、当社の企業行動の原点となるものです。
- (2) 「コンプライアンス・ガイドライン」は、「杏林製薬企業行動憲章」を補完するものであり、健全かつ正当な事業活動を行うための基準を明確化したものです。
- (3) 企業倫理およびコンプライアンス体制を総括管理するため、2004年12月よりコンプライアンス委員会を設置しました。
また、各拠点にコンプライアンス推進担当者を置くことにより、企業倫理およびコンプライアンスの理解・浸透を図っています。

教育研修

企業倫理およびコンプライアンスの理解・浸透を図るべく、社内教育を行っています。

- (1) コンプライアンス担当部署が中心となって、全社的な階層別教育（ex. 新入社員教育、新任管理者研修等）において、企業倫理およびコンプライアンスに関する教育研修を実施するとともに、当社の役員および従業員に対する啓蒙活動を展開する。
- (2) 各部門で実施する職能教育等において、企業倫理およびコンプライアンスに関する内容を盛り込み、従業員の理解・浸透と業務への反映を図る。
- (3) 毎年11月をコンプライアンス強化月間として、全社でその浸透に努めております。

2. 当社のリスク管理に対する取り組み

基本方針

リスク発生の予防に係る管理体制の整備及び発生したリスクに適切に対応し、会社と与える損害を最小にすべく、リスク管理を推進します

取り組み

リスクの発生予防に係る管理体制の整備、発生したリスクへ対応するため「リスク管理委員会」を設置いたしました。同委員会の役割は以下のとおりです。

- (1) 潜在リスクを把握するため、関係各部に対しリスクの調査を指示する。
- (2) 潜在リスクが顕在化しないように、関係各部に対し各種規則・業務マニュアル類の整備、従業員への教育・啓蒙等必要な予防措置をとらせる。
- (3) やむなく発生したリスクによる損害を最小にするため、関係各部に対しリスク発生時対応マニュアルの整備、対応訓練（シミュレーション）の実施、保険への加入等必要な措置をとらせる。

教育研修

各事業所にリスク管理推進担当者を配置し、リスクに対する意識の向上と浸透を図っています。

社会とのコミュニケーション

観桜会

わたらせ創薬センターでは毎年、樹齢40年を超える桜を見る会を実施しており、今年も多数の方が訪れました。能代工場でも工場敷地内に近隣の皆様をご招待し、桜を見る会を実施しました。



△ わたらせ創薬センター



△ 能代工場

地域産業祭への参加

岡谷工場では毎年地元岡谷市の岡谷モノづくりフェアに、能代工場では能代産業フェアに2007年度より参加し、毎年多数の方々のご来場を頂き大盛況となっております。



△ 岡谷工場



△ 能代工場

納涼祭

わたらせ創薬センターおよび各工場では、毎年納涼祭に周辺住民の皆様にご好評を頂いております。また、当社への理解を深めて頂く機会にもなっております。



△ わたらせ創薬センター



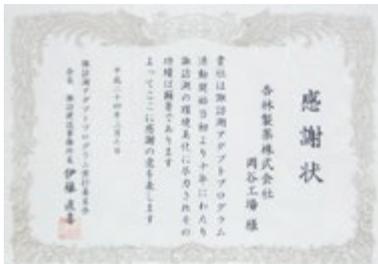
△ 能代工場



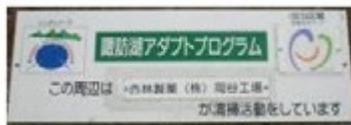
△ 岡谷工場

地域清掃活動（生物多様性の保存活動の一環です。）

岡谷工場



岡谷工場では、諏訪湖畔の一定区間を受持ち、美化活動を行なう諏訪湖アダプトプログラム（里親制度）の契約を締結し、活動は10年以上継続しています。2011年度には諏訪湖アダプトプログラム実行委員会より感謝状を頂きました。また、社員一斉参加により湖畔公園の清掃も引き続き実施しました。



能代工場



旧金勇（かねゆう）

能代工場では、郷土の防風林として、また憩いの場所として市民に親しまれている“風の松原”の清掃ボランティア活動に参加しています。また、能代市が管理する歴史的建造物である旧料亭金勇の保存活動として、清掃ボランティアを実施しています。



わたらせ創薬センター



わたらせ創薬センターでは、会社周辺及び渡良瀬遊水地内の清掃活動を実施しました。

本社



本社がある御茶ノ水では、年2回千代田区の清掃ボランティア活動を実施しており、有志従業員が自主的に参加しています。

その他の活動

支店



営業所の中には、ケアハウスなどでボランティア活動に参加したところもあります。

わたらせ創薬センター



わたらせ創薬センターでは、杏の木を「全国友の会 小山支部」へ提供し、地域の植樹に貢献しています。

工場・研究所・本社見学の受け入れ



中学生、高校生、大学生、秋田県山本地域振興局他の見学を毎年受け入れております。

2015年度は4事業所（能代工場、岡谷工場、わたらせ創薬センター、本社）にて地球環境に配慮した最新の設備、技術やオフィスを紹介させていただきました。

インターンシップ



毎年本社、研究所、工場、営業所にて大学生、高校生を受け入れインターンシップを実施しております。

医療用医薬品の研究開発、製造、医療機関での適正使用の情報提供など、現場の魅力や雰囲気を直接に感じてもらっています。

くすり情報センター

患者様や一般消費者、医療従事者（医師、歯科医師、薬剤師等）の方々からのお問い合わせに直接、電話口でお答する「くすり情報センター」を設置しております。
 （平日のみ：9時～17時、フリーダイヤル：0120-409341）

スポーツイベントの支援



当社は人々の健康を促す数々のスポーツイベントに協賛しています。特に、子供たちが心身ともに健康に育つよう、応援しています。

毎年恒例の「しもつけサッカーセミナー in 野木」は、好評のうちに16年目となり、今年もたくさんのお子様たちの応募をいただきました。指導はTVや雑誌、新聞でお馴染みのスポーツジャーナリスト中西哲生氏にお願いしました。絶妙なトークと優れた指導で、子供たちを楽しませてくれました。

キョーリンスマイルプログラム



当社は、2007年度よりコーポレートブランド活動の一環として、「笑顔のある社会」の実現を目指して、全社員一丸で具体的な活動を行うことになりました。活動をキョーリンスマイルプログラムと名づけ、「健康はキョーリンの願いです」をテーマに、各職場で様々な取り組みを展開しています。

＜主な取り組み＞

- ・募金活動（ユニセフへ寄付）
- ・使用済み切手収集（ジョイセフへ寄贈）
- ・ペットボトルキャップ収集
（途上国へワクチンを送る）
- ・買い物時にエコバッグ使用
- ・事業所地域周辺の清掃活動
- ・アルミ缶の回収（車椅子の寄贈）
- その他

10 2016 年度全社重点目標

2016 年度
重点目標

スローガン：EHS - HOPE100

杏林製薬（キョーリン製薬グループ）を永続的に堅実で健全な企業として成長させるため、地球と人に優しい企業を目指します。

全社目標

環境

- ◎ エネルギーの合理化(CO₂ 削減)
- ◎ 廃棄物の削減

社会貢献活動

- ◎ 社会貢献活動の推進と周辺住民とのコミュニケーション

労働安全衛生

- ◎ 休業労災ゼロの実現

2016 年度も節電対策を継続し、全社で省エネ活動に努めていきます。工場・研究所では設備導入やエネルギーの合理化を進めていき、支店・営業所では空調の温度設定などビルエネルギーの省エネ活動に取り組んでいきます。また CO₂ 排出量の削減策を検討するために、引き続き CO₂ 削減プロジェクトにて、杏林製薬各事業所と関係するグループ会社と共に対策案を検討し、CO₂ 削減に取り組んでいきます。

2012 年度から健康生活応援企業としてより一層「社会貢献活動」を拡充すべく、工場・研究所で実施している地域貢献活動（地域清掃活動、納涼祭など）は継続していきます。それに加え、支店・営業所でも社会貢献活動を実施する体制を整え、2013 年度からMRへの普通救命講習を行い、2016 年度は昨年度に受講した MR の継続的な教育を行うことにより全社での社会貢献活動の推進に取り組んでいきます。

研究開発部門
製造部門

環境

- ◎ CO₂ 削減策の検討と実行
2016 年度の目標：対前年度比 2%削減。
- ◎ 廃棄物の低減 2019 年度末までに最終処分率 1%以下達成

社会貢献活動

- ◎ 地域貢献活動
- ◎ 周辺住民とのコミュニケーション

労働安全衛生

- ◎ 休業労災ゼロ
- ◎ 労働安全衛生対策の履行による労災の削減

2016 年度の CO₂ 排出量（工場、研究事業所計）は、2010 年度に掲げたスローガン「EHS-HOPE100」を基に、最終年度の目標値に向けた省エネ対策を実施していきます。廃棄物最終処分率は 1%以下を目標とします。

各事業所で実施している社会貢献活動の内容について全社共有を図り、全社で社会貢献活動に積極的に取り組みます。

労災事故は、休業労災ゼロを目指します。

営業部門

環 境

- ◎ 効率的運転で燃費向上 (目標: 前年度平均燃費より1%改善)
- ◎ 省エネ活動
- ◎ 日々の営業活動を通じた環境と社会への貢献

社会貢献活動

- ◎ 地域貢献活動の実施
- ◎ MRの普通救命講習受講

労働安全衛生

- ◎ 事故率 5% 以下への具体策検討と実施
- ◎ 車両事故の削減: 事故率 18% 未満
- ◎ 重大事故の低減、無事故日数の継続

2016 年度は CO₂ 排出量削減のため、引き続きエコドライブ等の推進により前年度平均燃費1%改善を目標とします。

車両事故については事故率 18% 未満を目標とし、事故多発者への指導、教習や衝突防止システム付車両の導入などを継続実施していきます。特に新入社員に関しては研修中での実車教習時間の増加を実施していきます。2016 年度も関係部署と協力し事故削減に向け新たな取り組みを実施します。

本社部門

環 境

- ◎ エネルギーの合理化継続実施

社会貢献活動

- ◎ 地域貢献活動

労働安全衛生

- ◎ 防災体制の強化
- ◎ 健康確保の活動
- ◎ 快適なオフィスの維持

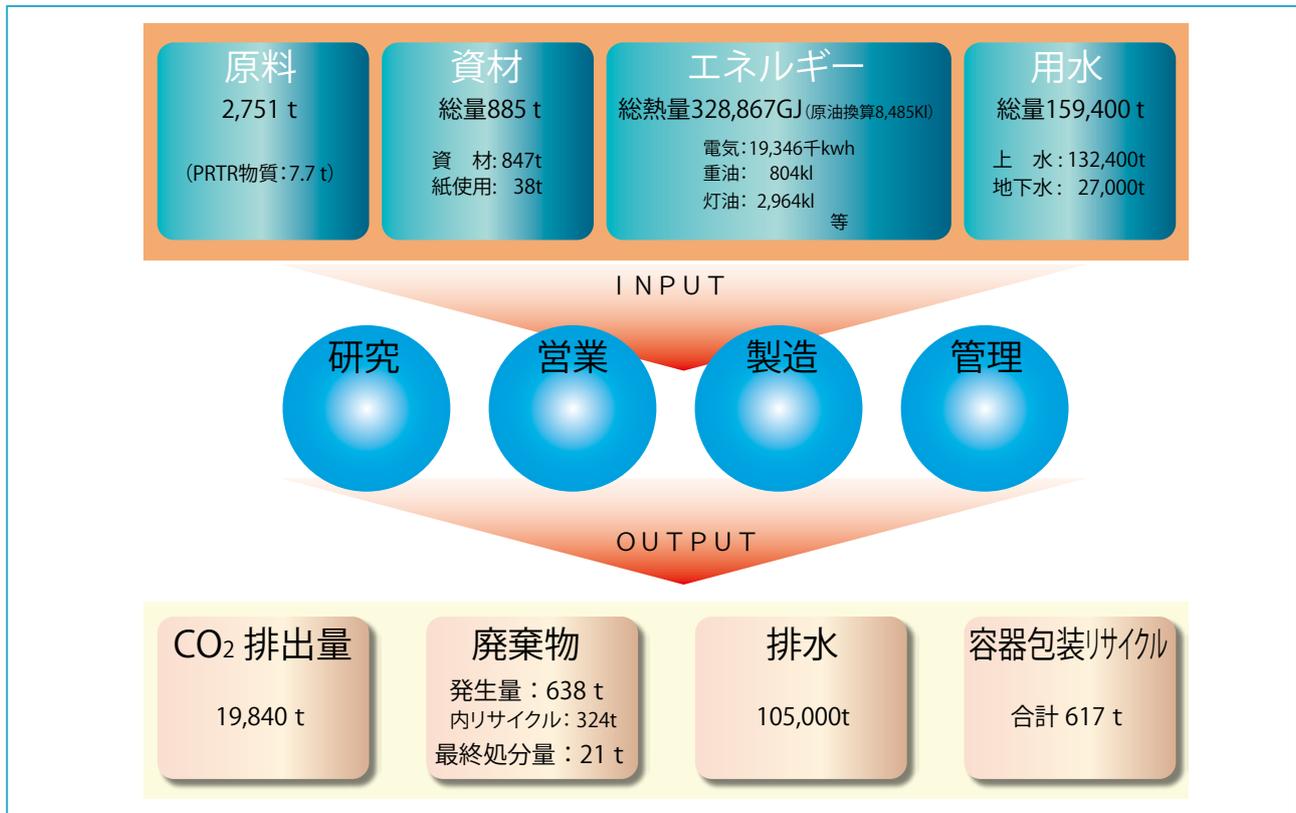
2016 年度は、エネルギー使用量前年度以下を目標に社屋のエネルギー使用状況にあわせた節電対策等の活動を引き続き実施していきます。

本社防災訓練の実施・ビル管理会社の防災訓練に参加することにより、本社ビルでの避難経路徹底と備蓄品場所の周知、自衛消防隊員の訓練を実施していきます。

社員の健康維持管理についても、各種体組成計付のヘルスマーターや血圧計の設置、本社内での健康セミナー開催(年2回)により、各自が手軽にできるヘルスチェック、メタボ対策等を実施していきます。

11 マテリアルフローと環境会計

マテリアルフロー (2015 年)



環境会計 2015 年度分

(単位: 千円)

環境保全コスト	設備投資額	維持管理費用
公害防止コスト	262,871	297,421
地球環境保全コスト	199,721	176,559
資源循環コスト	0	37,853
上下流コスト	0	27,771
管理活動コスト	0	37,920
研究開発コスト	0	0
社会活動コスト	0	1,606
環境損傷コスト	0	0
合計	462,592	579,130

(単位: 千円)

環境保全経済効果	
廃棄物リサイクル収入	0
使用エネルギー節減	3,580
廃棄物売却収入	30
処理費用節減	3,010
合計	6,620

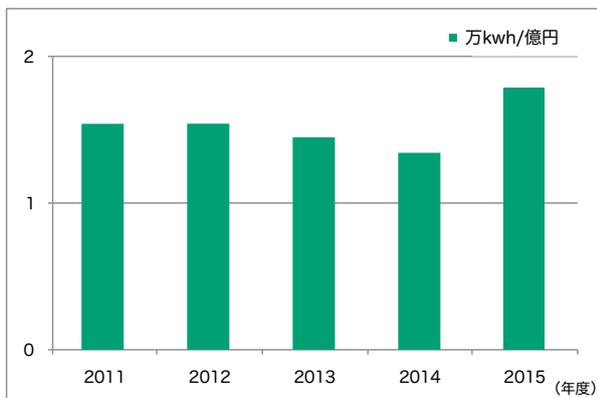
環境保全効果	指標	単位	増減量	負荷量 (2015 年度)	負荷量 (2014 年度)
投入資源に関する効果	エネルギーの使用電気	千 kwh	6,316	19,346	13,030
	燃料の使用 重油	キロリットル	-263	805	1,068
	燃料の使用 灯油	キロリットル	60	2,964	2,904
	紙の使用	t	-10	38	48
	化学物質の使用	t	-13	280.0	293.7
	溶媒の使用	t	6	40	34
排出する環境負荷及び削減に関する効果	廃棄物の発生量	t	-21	638	659
	大気への排出量	t CO ₂	2,451	19,840	17,389
排出物のリサイクル効果	同上 *	t NO _x	-43	50	93
	排水	t BOD	0.0	0.5	0.5
	総排水量	千 t	6	105	99

12 環境に関するデータ

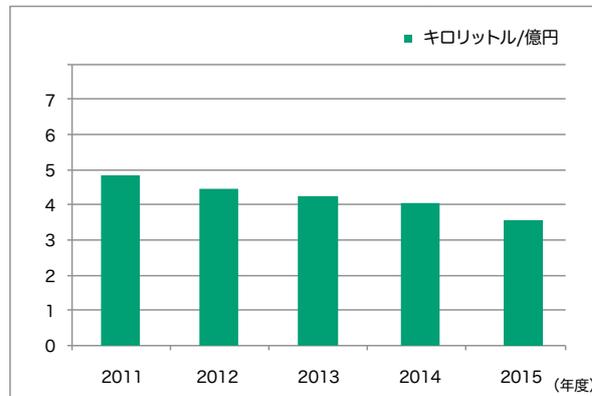
電力・燃料の推移

全社のデータ

全社の電力消費量/売上 (万kwh/億円)

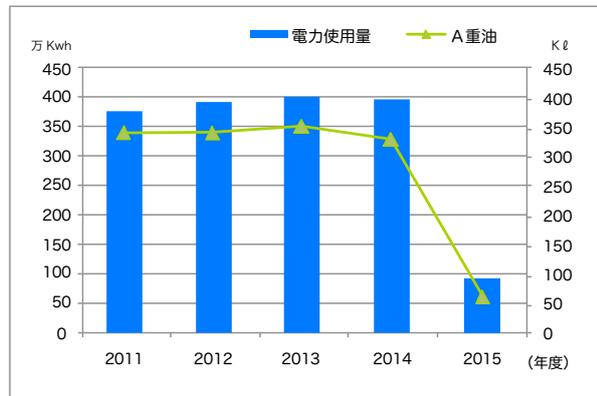


全社の燃料使用量/売上 (キロリットル/億円)

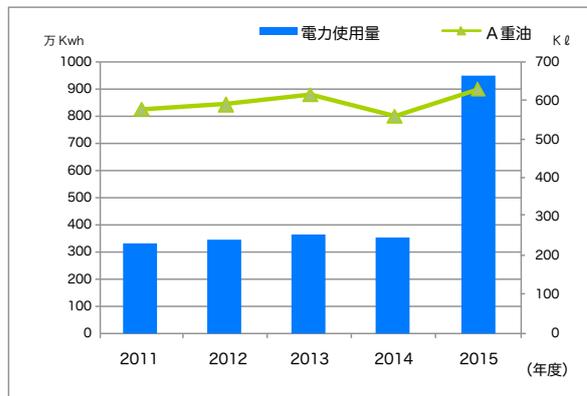


事業所毎のデータ

旧 創薬研究所 (2015年7月閉鎖)

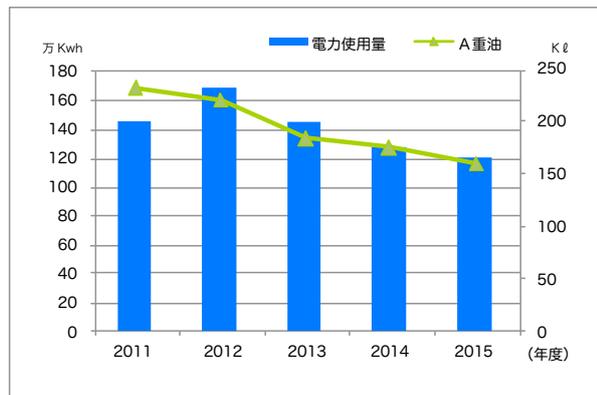


わたらせ創薬センター

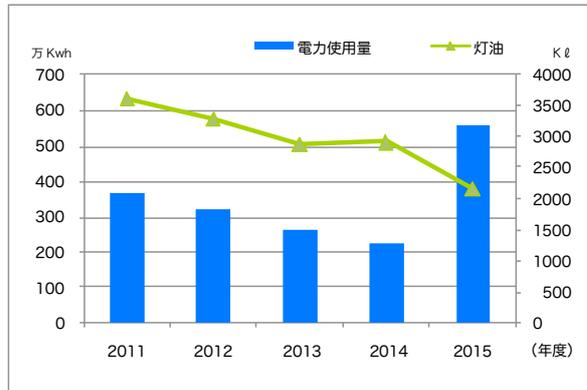


* 2011年度～2014年度は旧開発研究所の実績で、2015年度も一部旧開発研究所が含まれております。

岡谷工場

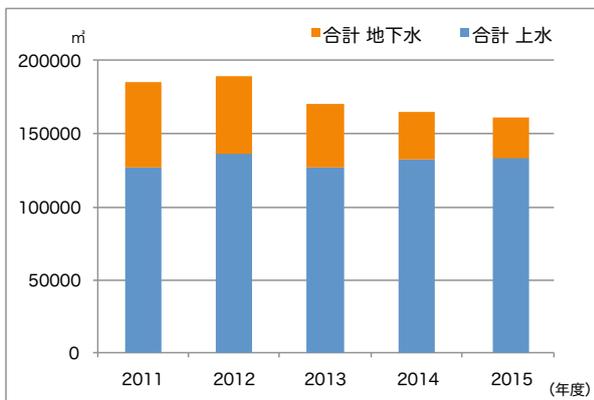


能代工場



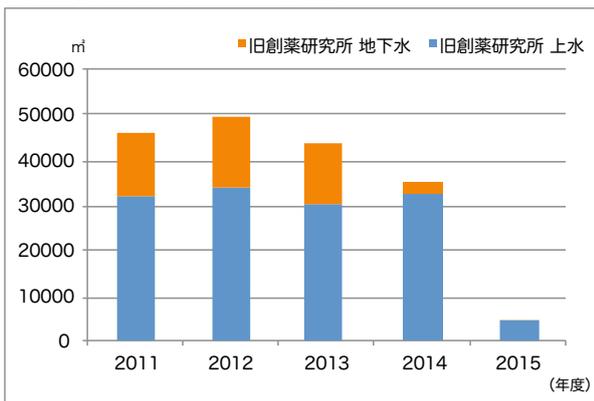
水使用量推移

全社のデータ

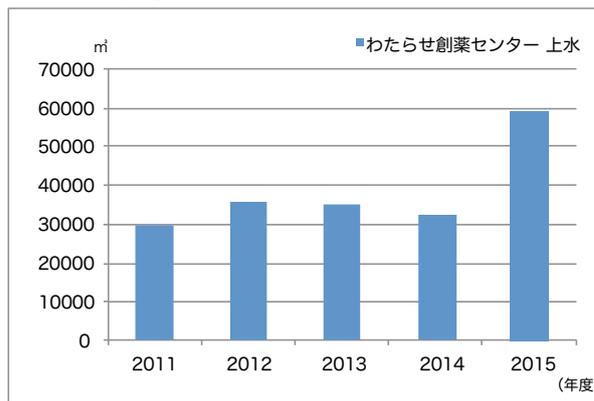


事業所毎のデータ

旧 創薬研究所 (2015年7月閉鎖)

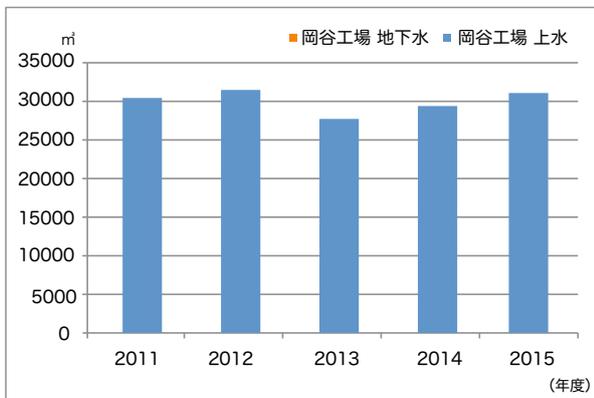


わたらせ創薬センター

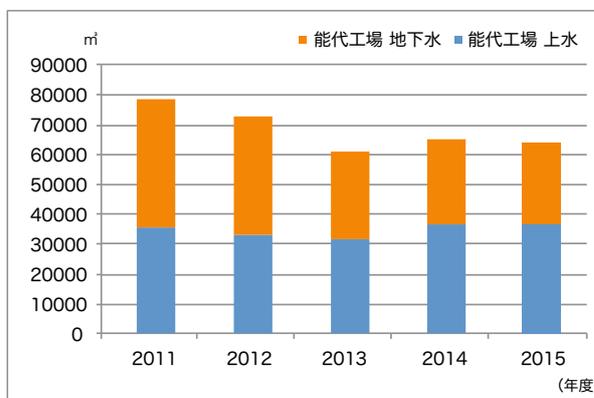


* 2011年度～2014年度は旧開発研究所の実績で、2015年度も一部旧開発研究所が含まれております。

岡谷工場



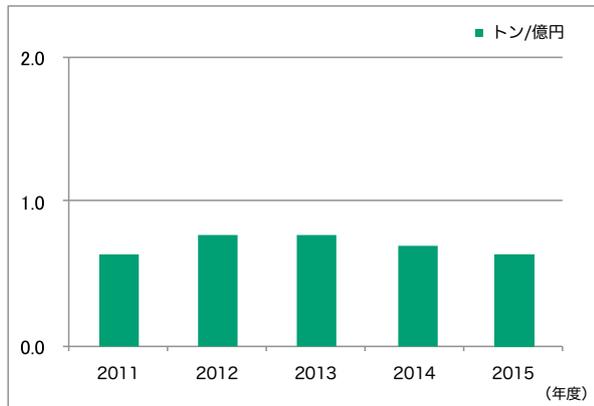
能代工場



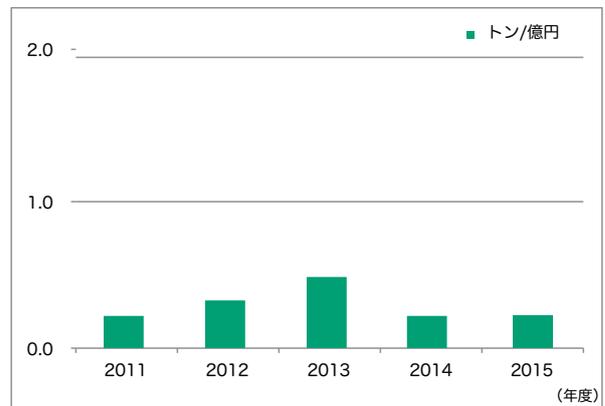
廃棄物発生量推移

全社のデータ

廃棄物発生量 t / 売上げ (トン/億円)

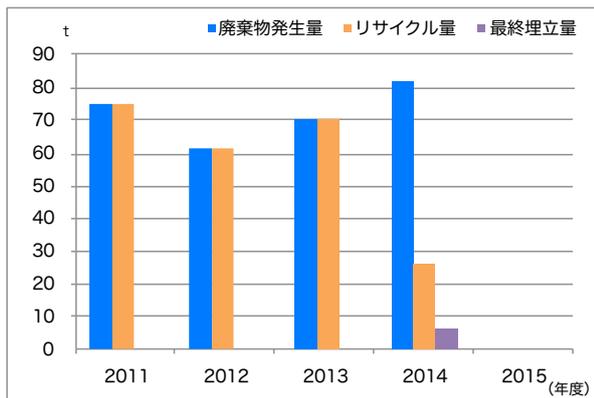


リサイクル量 t / 売上げ (トン/億円)



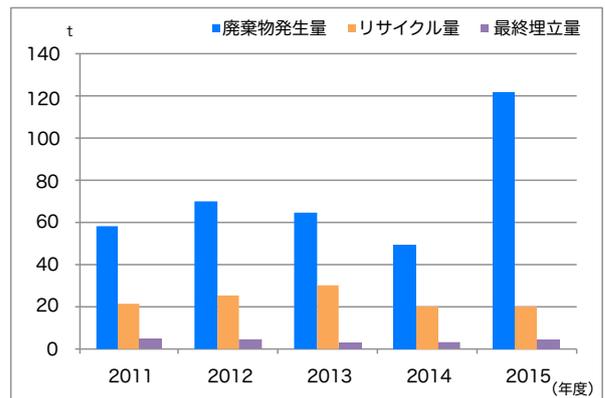
事業所毎のデータ

旧 創薬研究所 (2015年7月閉鎖)



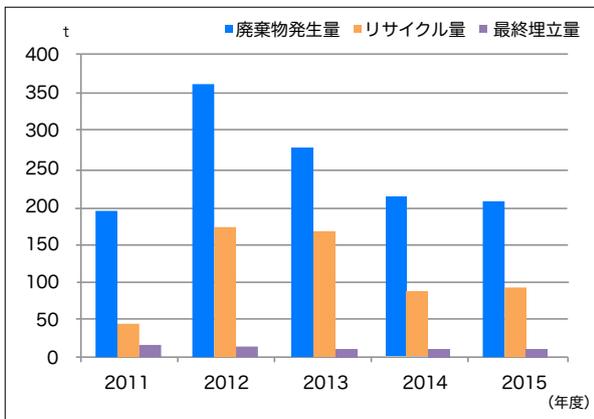
* 2015年度実績はわたらせ創薬センターの実績に含まれております。

わたらせ創薬センター

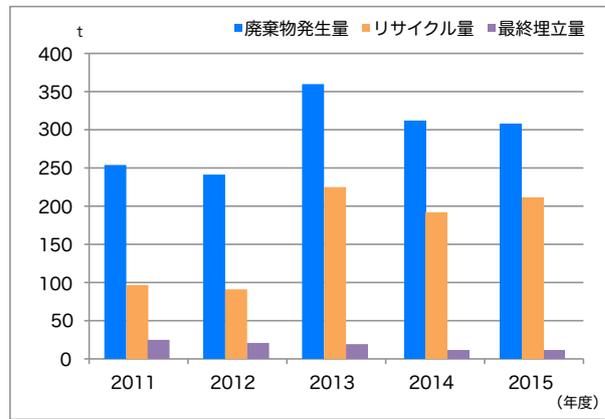


* 2011年度～2014年度は旧開発研究所の実績で、2015年度も一部旧開発研究所が含まれております。

岡谷工場



能代工場



排水関係データ

事業所名	区分	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	規制値
旧創業研究所	PH	7.0	7.1	7.2	7.3	7.1	5.8～8.6
	BOD	2.5	1.8	1.4	1.3	1.3	25
	SS	2.3	1.5	1.2	1.5	1.0	50
わたらせ創業センター	PH	7.0	7.8	7.4	7.0	7.7	5.8～8.6
	BOD	1.0ppm以下	1.0ppm以下	1.1ppm	1.0ppm以下	1.7ppm	25
	SS	3.0ppm	1.0ppm以下	1.0ppm以下	1.0ppm以下	1.1ppm	50
岡谷工場	PH	7.8	7.9	7.8	7.63	7.69	5.8～8.6
	BOD	2.1	2.5	14.7	9.6	9.87	300
	SS	8.9	4.8	14.2	13.8	16.17	300
能代工場	PH	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	5.8～8.6
	BOD	3.9	6.1	10.6	8.4	6.6	300
	SS	3.0	6.4	7.5	12.3	2.2	300

ばい煙関係データ

事業所名	種類	測定項目	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	規制値
旧創業研究所	ボイラー	ばいじん g/N m ³	0.0028	0.0022	0.0012	0.0025	0.003	0.5
		NO _x ppm	78	72	91	69	77	260
		SO _x N m ³ /H	0.0143	0.0123	0.0098	0.0052	0.0047	14.5
	発電機 注1)	ばいじん g/N m ³						0.1
		NO _x ppm						950
		SO _x N m ³ /H						14.5
わたらせ創業センター	ボイラー	ばいじん g/N m ³	0.004	0.002	0.003	0.003	0.005	0.5
		NO _x ppm	84	89	91	70	77	260
		SO _x N m ³ /H	0.018	0.007	0.008	0.006	0.007	14.5
	発電機 注2)	ばいじん g/N m ³						0.1
		NO _x ppm						950
		SO _x N m ³ /H						14.5
岡谷工場	ボイラー	ばいじん g/N m ³	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.006 未満	0.3
		NO _x ppm	62	43	62	54	61	180
		SO _x N m ³ /H	0.019	0.020	0.026	0.036	0.036	4.91
能代工場	ボイラー AKP 棟	ばいじん g/N m ³	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満	0.01 未満	0.3
		NO _x ppm	50 未満	50 未満	50 未満	50 未満	78	なし
		SO _x N m ³ /H	0.087 未満	0.085 未満	0.075 未満	0.075 未満	0.01 未満	1.4
	ボイラー PAK 棟	ばいじん g/N m ³	0.01 未満	0.3				
		NO _x ppm	58	63	61	62	52	なし
		SO _x N m ³ /H	0.01 未満	1.4				

注1) わたらせ創業センター（開発研究所）は2011年度より自家発電機を撤去いたしました。

注2) 創業研究所は2010年度より自家発電機を撤去いたしました。

用紙使用量推移

年度	集計範囲	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
枚数	工場・研究施設・本社	498万枚	498万枚	516万枚	464万枚	433万枚
	全社（支店含む）	1,384万枚	1,343万枚	1,317万枚	1,203万枚	960万枚

枚数はA4換算です。

PRTR 使用量推移

化学物質名	使用量					PRTR法 届け出対象物質
	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	
アセトニトリル	1.0 t	2.0 t	1.9 t	1.7 t	1.7 t	○
エチレンオキサイド	0.0 t	0.0 t	0.0 t			○
ホウ素及びその他の化合物	0.0 t	0.0 t	0.0 t			○
エチレングリコール	0.0 t	0.0 t	0.0 t			—
キシレン	0.1 t	0.2 t	0.1 t	0.1 t	0.2 t	○
クロロホルム	1.0 t	1.1 t	1.5 t	0.9 t	0.7 t	○
ピペラジン	0.0 t	0.0 t	0.0 t			○
トルエン	0.4 t	0.3 t	0.4 t	0.2 t	0.1 t	○
N,N-ジメチルホルムアミド	0.3 t	0.1 t	0.1 t	0.1 t	0.1 t	○
ジクロロメタン	0.6 t	0.5 t	0.6 t	0.5 t	0.5 t	○
N-ヘキサン	5.4 t	5.7 t	5.0 t	6.0 t	4.3 t	○(2010年～)
総量	11.8 t	8.7t	9.9 t	9.5 t	7.7 t	

騒音関係測定データ

事業所名	規制値 (db)		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
旧創業研究所	昼	65 以下	45	44	64	なし
	夜	50 以下	40	43	43	なし
わたらせ 創業センター	昼	65 以下	45	43	51	52
	夜	50 以下	42	44	44	48
岡谷工場	昼	70 以下	46	47	49	49
	夜	65 以下	43	43	44	44
能代工場	昼	65 以下	48	49	50	44
	夜	50 以下	44	44	44	39